

夏の渡辺の学

ジャンボ富士山

夏山シーズンと世界文化遺産登録による富士山ツアーが終わり、静寂にまつまれた本来の富士山に戻りました。最近、富士山の話や情報は激減し、人々の関心も加速度的に低下しています。山梨、静岡両県が今夏に試行した入山料(保全協力金)の分析・評価や、来年度以降への抜本的な保全・安全対策に対する対応は低調ながらも、来夏も入山料が徴収されることになりそうです。今のところ、ほかには対策の実施による劇的な変化や改善はありません。イコモスとユネスコ世界遺

世界遺産委勧告 低調な対応



渡辺豊博さん

保全・安全へ6項目の提案

産委員会から指摘された勧告事項に対し、真摯で現実的な議論と検討は、いつ、どこで、だれが責任を持って対応し、解決するのでしょうか。70回近く富士山に登り、実態を熟知しているのに、心配で夜も寝られない心境です。両県による検討経過や内容から判断すると、複雑で多岐にわたる課題ゆえに解決は難しく、時間的制約や利害対立などもあり、2016年2月1日までの解決は無理ではないかとも感じています。そこで、イコモスが求めて

いる「保全状況報告書」に対する提案をします。

①「巡礼道の描出」(構成資産間の関連性の理解を促進するため、現在は使われていない巡礼道などを特定する調査研究)。必要なのは、山麓の巡礼道の位置・経路の描出で、文献及び現地調査で対応できます。

②「来訪者管理戦略」(適正な登山者数の維持などのための方針と手法)。上方の登山道の適正な利用には以下の具体策があります。登山者数の実態、平準化に関する調査▽マイカー規制に関する検討▽山小屋の宿泊状況などの実態調査▽安全登山のための方策と情報提供のあり方の検討▽利用者負担(協力金)に関

する検討です。さらに、下方の巡礼道と来訪者の受け入れ施設や景観と開発が与える影響の制御についても考える必要があります。

③「登山道の総合的な保全」(登山道・山小屋・ブルドーザー道に関し、富士山の神聖さ・美しさと調和した保全の方針と手法)。具体的には、登山道の保全管理(パトロールや修繕)の状況把握と分析▽山小屋の改修の状況把握と風致景観への配慮▽救護所の状況と設置の検討▽ブルドーザーの運行状況の把握と頻度を最小限にするための検討▽山小屋トイレの実態と維持管理に関する検討▽発電機による環境への影響調査と負

荷軽減の検討です。

④「情報提供戦略」(ビジターセンターの整備。構成資産の関連性の示し方や各構成資産における解説の方針と手法)。これからの課題も少なくありません。世界遺産センターの整備や世界遺産ガイドの養成と活用、レンジャーの増員などです。

わたなべ・とよひろ
(都留文科大教授)